

2015年1月（日本国大使館）

安 全 情 報

～2014年中におけるカンボジア犯罪発生状況等～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

1 2014年中の犯罪発生総件数は下記表のとおり2,814件と前年と比べて105件(4%)増加しています。

強盗事件は20%減少していますが、251件と依然として高水準で推移しており、又、窃盗事件は143件(+15%)も増加しています。

No.	犯罪種別	2014年	2013年	増減
I	重要犯罪	716	790	-74件(-9%)
1	強盗	251	315	-64件(-20%)
2	殺人	213	234	-21件(-9%)
3	強姦のみ	226	215	+11件(5%)
4	強姦殺人	6	7	-1件(-14%)
5	監禁（身代金目的）	6	3	+3件(+100%)
6	監禁（その他）	1	4	-3件(-75%)
7	手榴弾攻撃	9	8	+1件(13%)
8	硫酸攻撃	2	3	-1件(-33%)
9	偽造通貨使用	2	1	+1件(+100%)
II	その他の犯罪	2,098	1,919	+179件(+9%)
1	過失（傷害）致死	13	10	+3件(+30%)
2	窃盗	1,128	985	+143件(+15%)
3	詐欺・背任	100	71	+29件(+41%)
4	傷害	791	797	-6件(-1%)
5	わいせつ	48	43	+5件(+12%)
6	違法武器使用	18	13	+5件(+38%)
犯罪発生総件数		2,814	2,709	+105件(+4%)

2 2014年に発生した251件の強盗事件のうちの半数近い119件がプノンペン市内で発生しており、更にそのほぼ半数の59件が武器を使用した強盗事件でした。プノンペン市内における強盗が多い理由について、警察は、「①他の地域に比べて拳銃等の武器の入手が容易である、②犯罪のターゲットになりやすい裕福な者や外国人が多い、③若者を中心とした強盗集団がプノンペンに存在する等の理由が考えられる」としており、更に、若者の強盗集団は金品を奪うためには、拳銃を撃つこともためらわないと位置付けています。

2013年には、2件の邦人被害の拳銃使用強盗事件（うち1件は殺人事件）が発生しており、これらの事件も若者の強盗集団による事件でした。いずれの事件も犯人は逮捕されていますが、**犯人は金品を強取するために被害者に拳銃を発射する**という残虐且つ大変痛ましい事件でした。

いずれの事件も、ひったくりから拳銃使用事案に発展しており、カンボジアでは、**ひったくり犯人が拳銃を隠し持っている可能性がある**ということは否定できません。

3 2014年中に当館で把握している邦人被害のひったくり事件は39件にも上り、そのうちの37件がプノンペン市内における被害でした。

上記の通り、当地では、ひったくりから拳銃使用事案に発展する可能性が否定できないことから、ひったくり（強盗、すり）犯罪被害に遭わないよう、また、被害に遭った場合でも被害を最小限に抑える為に、外出をする際は以下の点に留意して下さい。

- **カンボジア国内において安全な場所、時間帯はないという意識を持つこと。**（カンボジアでは、人通りが多い場所及び時間帯でも拳銃使用による強盗犯罪が多発しています。カンボジアは日本と違うという認識を新たにしようお願いします。）
- 外を歩く際は、出来る限り手荷物を持たないようにし、可能な限り両手を自由にしておくこと。
- やむを得ずバック等を所持する場合は、高価なバック等は避け、バックの中には多額の現金や高価なものは入れないこと。
- バックは肩に掛けているとひったくられやすく、また、タスキ掛けにした場合、取られにくい反面、強奪された場合、負傷する可能性が高いということを認識すること。（引きずられる、武器を使用される等）
- 自転車のかごには貴重品の入ったバックを入れないこと。又、かごの隅をヒモで結ぶ等、ひったくり犯人に犯行を行う隙を与えないこと。
- 不必要に多額の現金を持ち歩かない（使用する予定の現金のみ持ち歩く）こと。
- 夜間の外出はできる限り避け、日中でも徒歩による移動は控えること。
- 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、尾行者等に気づいた

ら、子供であっても油断せず、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごすこと。

- 徒歩中に使用中の iPhone をひったくられる事案も増えていることから、外を歩く際は、携帯電話やデジカメ等高価なものをむやみに取り出さないこと。
- トゥクトゥクの運転手が強盗を行うケースもあることから、移動には、なるべくメータータクシーを利用し、やむなくトゥクトゥクを利用する場合には、信頼できるドライバーかどうか確認すること。又、トゥクトゥク乗車中におけるひったくり被害も多いことから、乗車中、バックは膝の上等に置かず、常時胸の前で抱えておくこと。

4 不幸にも犯罪被害に遭遇した場合は以下の点に留意して下さい。

- ① ひったくり犯罪被害時
 - ひったくり犯であっても、拳銃を隠し持っている可能性があるという意識を常に持つこと。
 - 場合によっては、身の安全を第一に考え、バックをそのまま犯人に渡すことも考慮すること。（その際の被害を最小限に抑える為にも、外を歩く場合は出来るかぎりバックを携行しないこと、又、バックを携行する場合でも貴品や多額の現金を入れないこと。）
- ② 凶器を使用した強盗被害時
 - 絶対に抵抗しないこと。
 - 両手を挙げて無抵抗の意思を示すこと。
 - 犯人を追跡せず、直ぐに警察に連絡すること。
- ③ 拳銃の発砲事件等に遭遇した場合
 - その場に伏せること。
 - 不用意に動かないこと。

カンボジアは過去と比較して安全になったイメージがありますが、犯罪は依然として頻繁に発生しています。日本と比べて当地での生活には特に注意し、○危険な場所には近づかない、○夜間に人通りが少ない道の1人歩きはしない、○深夜の不要の外出は控える、○多額の現金や貴重品は持ち歩かない、○見知らぬ人を安易に信用しない、○買い物は信用のおける店を選ぶ、○ホテルの中でも安心しない、○犯罪に遭遇した場合抵抗しない、など「自分の身は自分で守る。」をモットーに防犯に心掛けて下さい。